

表3.1.12 平成15年度学生異動状況(クラス別)

		1年	2年	
1組	当初在籍数	42	43	
	異動	退学	2	3
		留年	0	3
	学年末進級者数	40	37	
2組	当初在籍数	42	43	
	異動	退学	3	3
		留年	1	0
	学年末進級者数	38	40	
3組	当初在籍数	42	43	
	異動	退学	0	3
		留年	1	1
	学年末進級者数	41	39	
4組	当初在籍数	42	43	
	異動	退学	1	0
		留年	1	2
	学年末進級者数	40	41	
5組	当初在籍数	42	43	
	異動	退学	1	3
		留年	1	5
	学年末進級者数	40	35	
合計	当初在籍数	210	215	
	異動	退学	7	12
		留年	4	11
	学年末進級者数	199	192	

### 3.1.3 授業外教育の実施状況

#### (1) インターンシップの実施状況

平成15年度のインターンシップは、昨年度とほぼ同様、本校4年生を対象に夏休み期間を利用して実施した。参加学生は169名で、その内、企業に118名、大学の研究室に31名、公設(研究)機関に20名が受入れてもらった。また、地域別の参加者数は、県内参加者が124名(63受入機関)、県外の四国内は19名(11機関)、四国外は26名(21機関)で、総計95機関からの受入をしていただいた。

平成15年度のインターンシップの実施にあたり、その事前学習を充実させるために、従来からのインターンシップ講演会の開催に加えて、個々の学生に対してはインターシップ先が決まり次第、その目的を明文化することを指導した(目的の提出)。また、実施後には、インターンシップ報告書の作成と報告会も各学科単位で実施した。なお、インターンシップ講演会は下記の通り実施した。

#### インターンシップ講演会A

講演者：三菱電機ビルシステム(株)人事部 二馬康昌

日時：平成15年7月14日(月) 12時30分～14時30分

場所：新居浜工業高等専門学校(視聴覚教室)

参加者：4年生（機械工学科、電気工学科、材料工学科）

#### インターンシップ講演会B

講演者：アルプス電気（株）人事グループマネージャ 浅野祐子

日時：平成15年7月15日（火） 12時30分～14時30分

場所：新居浜工業高等専門学校（視聴覚教室）

参加者：4年生（電子制御工学科、生物応用化学科）

今後、さらに事前学習の充実、受け入れ機関の厳選、期間中の指導体制の強化、報告会を含めた事後学習充実などの検討、改善を継続的に行っていくことが大切である。

#### (2) 各種資格試験の取得状況

表3.1.13に平成15年度の各種資格試験の取得状況を示した。取得者には「英検」あるいは「課題演習1」として単位が認定される。単位認定者数は54名で、昨年の77名と比較して減少している（それ以前は100名前後の学生が単位取得している）。また、「課題演習2」の単位取得者数は、電気工学科で13名、生物応用化学科で29名であった。今後、学生に各種資格取得の有効性を理解してもらい、このような資格試験の受験や選択科目の受講をより勧めていく必要がある。なお、平成16年度から「課題演習2」は全学科で開設している。

表3.1.13 各種試験の資格取得状況

国家試験・資格試験	M	E	D	C	Z	計
実用英語技能検定（2級）			1			1
実用英語技能検定（準2級）		1	2	1	1	5
工業英語技能検定	1	1	1			3
TOEIC	1					1
TOEFL			1	1		2
ドイツ語技能検定	1	1				2
漢字検定	1					1
危険物取扱者（甲種）				3		3
危険物取扱者（乙種4類）	5				8	13
危険物取扱者（丙種）	2				1	3
デジタル技術検定2級情報			4			4
デジタル技術検定3級		2	1			3
PC利用技術認定試験2級			1			1
PC利用技術認定試験3級			3			3
初級システムアドミニストレータ			2			2
基本情報処理技術者試験			1			1
工事担任者		5				5
電気主任技術者試験		1				1
計	11	11	17	5	10	54

### (3) ティーチングアシスタントの実施状況

平成15年度のティーチングアシスタントも昨年度とほぼ同様に実施した。以下にその実施方法と状況を示す。

1. 内容：1, 2年の数学および物理について教科書を中心とした復習
2. アシスタント：5年生10人、専攻科1年生5人 計15人
3. アドバイザー：数学（1年生：古城教員、2年生：西谷教員）、物理（平木教員）
4. 受講生：1年生15名、2年生12名
5. 実施期間：10回（9月～1月）
6. 実施方法・時間：週1回（1年生：木曜日、2年生：火曜日）放課後1.5～2時間
7. 場所：物理教室
8. 実施状況
  - 1) 出席状況  
皆勤者：1年生 4名、2年生 3名
  - 2) 成績動向（前期末の成績と後期中間の成績を比較）  
1年生：数学Aの成績は、昨年と同様、7割近くの受講生の成績に向上が見られ、物理では4割の受講生の成績が上がった（昨年の物理では受講生の成績はほとんど上がらなかった）。  
2年生：物理の成績が軒並み向上した。数学Bも半数以上の学生に向上が見られた。
  - 3) 実施時間：延べ290時間（1,000円/時間 290,000円）
9. 問題点・コメント等
  - 1) 昨年と同様に、数学と物理は、その日の受講生の希望でどちらを学習しても良いことにした。
  - 2) アシスタントは一生懸命に指導してくれていたが、1年生の場合、アシスタントが10名で、少し多すぎるようであった。受講生の人数に応じたアシスタント数にすべきと思われる。（来年度は、受講生数を確認した後に、アシスタントを募集する。）
  - 3) 1年1組と2年5組からの受講生がなかった。受講生の募集・選出方法を改善する必要がある（希望して受講した学生は概ね出席率がよいように思われる）。
  - 4) 1年生の物理は、今年度から新教科書になっており、アシスタントが学習していない内容があり、少し戸惑っていたが、アドバイザー教員に指導していただいた。
  - 5) 受講生でない学生から「一緒に学習したい」との申し出があり、了承した（2年生で3、4名）。今後、受講生の募集方法についての改善を検討する必要がある。

### (4) 英語実力養成講座の実施状況

平成15年度の学年末休業中に英語実力養成講座を開講した。長期休業中のこのような学校全体の組織的な講座の開講は始めてである。以下にその実施方法と状況を示す。

1. 開講期間  
平成16年3月15（月）（火）～18日（金）の4日間 10:00～12:00
2. 場所：第1、第2電算室、一般教室
3. 講座の種類
  - 1) Aコース：英検2級[TOEICスコア500～699]又は英検準1級[TOEICスコア700～849]取得を目指したい者
  - 2) Bコース：英検準2級[TOEICスコア400～499]取得を目指したい者

- 3) 基礎コース：中学・高専低学年の基礎からやり直し、基礎学力をつけたい者
- 4. 対象者：本校学生
- 5. 担当者：本校6名の英語教員
- 6. 受講状況

- 1) 年度末の急な募集にもかかわらず、78名の学生が受講した。その内訳は、Aコースに8名、Bコースに48名、基礎コースに22名であった。
- 2) 本校でも学生の英語力の弱さを指摘されており、すぐにはその効果は現れてこないと思われるが、今後も長期休業中にこのような講座の開設を継続していく予定である。

(5) 学生対象の教養講演会

1) 「南極での通年観測・自然そして地球」

日時 平成15年10月17日(金) 14時10分～15時40分  
 場所 新居浜高専 視聴覚教室  
 講師 国立極地研究所教授 神山孝吉(第43次日本南極地域観測隊・越冬隊長)  
 対象 本科1年生対象。1年生約200名が聴講。

2) 「NHKデジタル塾 in 新居浜高専」

日時 平成16年1月19日(月)  
 12時30分～17時 ハイビジョン衛星放送デモ  
 15時30分～17時 講演「中谷日出のデジタル生活論」  
 場所 新居浜高専 視聴覚教室  
 講師 NHK解説員 中谷日出  
 対象 本科4,5年生、専攻科生対象

3.1.4 専攻科学生の成果発表状況

専攻科では、学生が特別研究で行った研究成果を、在学中に1回は専門分野の学会などで発表することを義務付け、積極的に挑戦するよう強く推奨している。また、論文にまとめて学会誌や紀要などに発表することを勧めている。図3.1.1に専攻科1期生からの発表件数の推移を示す。学会等発表件数は平成13年度以降30件程度で推移しているが、論文発表件数はこの2年間10件以下と以前に比べて少なく、論文発表の活性化を図る必要がある。

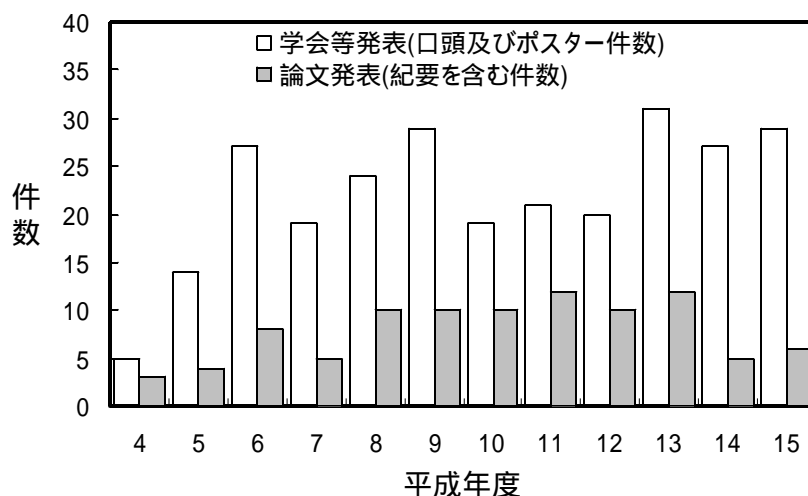


図3.1.1 専攻科生の発表件数の推移